

中野区教育委員会パブリック・コメント手続の実施結果

◇案件名 教育ビジョン実行プログラム（案）

◇意見募集期間 平成18年3月20日（月）から平成18年4月10日（月）まで

◇提出方法別意見提出者数

提出方法	人（団体）数
電子メール	7
ファクシミリ	2
郵送	0
窓口	161
計	170

◇提出された意見の概要及びそれに対する教育委員会（区）の考え方（同趣旨の意見は一括）

◇項目1 教育ビジョン実行プログラム（案）全体に関する意見（15件）

NO.	意見の概要	教育委員会（区）の考え方
1	素案から計画策定までの検討期間が短すぎるのではないか。	昨年8月に「検討素材」を公表し、公開の教育委員会で議論するとともに、素案、パブリック・コメント手続の各段階で区民のみなさんの意見を聞いてきました。教育ビジョン実行プログラムは、今後3か年で重点的に取り組む事業を具体的に示しています。
2	教育ビジョン実行プログラムは、計画性のない区民を苦しめるためのものに思える。子育てをしている保護者の意見も聞いて欲しい。	
3	区は区民の声を聞き、ともに施策を作るべきだ。具体的な内容を示すものが何も無いことに不安を感じる。	
4	中野区教育ビジョンの記述は理想的で、誰もがそうならばよいと願っていると思う。ビジョンを受けた具体策を作成する際に、筋違いな策や非効率的な案とならないことを強く望む。	平成18年度予算では、実行プログラムが実施できるよう編成を行いました。プログラムの実施にあたっては、区民のみなさんの意見を聞きながら、着実に進めていきます。
5	他区の良い所を参考にし、教育や子育ての計画づくりを行い、少子化の中でも区民がよりよい生活を送ることができるよう、行政として頑張りたい。	
6	プログラムは、誰が、いつ実施するのか。また、予算の項目がない。予算がなければなにもできないのではないのか。	
7	プログラムは実行して初めて価値が出る。着実な実行を願う。	

8	計画の内容を具体的にわかりやすく示して欲しい。	3か年で重点的に取り組む事業を具体的に示しています。
9	計画は、わかりづらい言葉に注釈をつけるなど、誰にでも理解できるものとして欲しい。	専門用語などについては、用語の解説を示しています。
10	新しい中野をつくる10か年計画から抜粋したような内容だ。他区に恥じない、中野区のオリジナルティーあふれるビジョン、区民の立場に立ち、区民が誇れるプログラムとして欲しい。	「教育ビジョン実行プログラム」と「新しい中野をつくる10か年計画」は平行して検討してきました。内容的に重なっているものもあります。教育ビジョン実行プログラムは、今後3か年で重点的に取り組む事業を具体的に示したものです。

◇項目2 プロジェクトごとの指標と目標値に関する意見（1件）

1	数値目標を設定し、毎月、進行状況を検証する必要がある。	教育ビジョン実行プログラム（案）では、プロジェクトごとの指標と目標値を定めています。毎年度、達成状況の進行管理を行っていきます。
---	-----------------------------	--

◇項目3 プロジェクトI（幼児教育の環境整備）に関する意見（246件）

【幼児教育全般】

1	区立幼稚園に関する対話集会では行政側からの一方的な説明、主張が多かった。区民と行政がきちんと対話できる場が欲しい。	
2	区は自分たちの意見を区民に押し付けるのではなく、区民の意見を聞いて欲しい。	
3	何年かけてでもじっくりと区民と向き合い、意見を聞き、保護者や子どもたちが大人になり中野区民でよかったと思える教育を進めて欲しい。	
4	幼児教育の目標よりも、具体案を出して欲しい。	3か年で重点的に取り組む事業を具体的に示しています。
5	幼児教育の主役である子どもたちにとって、一番望ましい環境を整えていくことが必要だ。	幼児教育は、人間的成長をするうえで欠かせない重要な意義をもつ大切なものと認識しています。区は、すべての子どもが幼児期に適切な教育・保育を受けられるよう、幼児教育の環境を整え、区全体の幼児教育の向上について役割を果たしていきます。
6	次の世代に胸を張って残せるような幼児教育を目指して欲しい。	
7	幼児教育を重視するべきだ。	
8	幼児教育を平等に受けられる権利を守って欲しい。	
9	子どもを大切にしない中野区には住み続けたくない。	

10	幼児教育を担当する区の職員は、人並み以上の情熱と見識をもって取り組んでもらいたい。	教育委員会では、教育行政の主体性を一層高め、教職員の人材育成に取り組んでいきます。
11	幼稚園の延長保育で、学校行事などに未就学児を連れて参加することが少なくなった。便利なサービスにも問題があるように思われる。親に連れられて学校に行くことは、義務教育への円滑な接続のよい練習となっていた。	幼児教育から義務教育への円滑な接続のため、幼稚園、保育園、小学校の連携によって取り組みを実施していきます。
12	母親が就業している家庭と専業主婦の家庭の子どもが、同じ条件で教育を受けるのはおかしい。	区内では、幼稚園・保育園が、保護者の状況に応じてそれぞれの役割を担っています。なお、幼児総合施設も設置する予定です。
13	保護者のニーズを重視し過ぎ、幼児期の子どものニーズを置き去りにしているのではないか。	保護者のニーズに応えるとともに、子どもにとってより良い環境で過ごせる質の高い幼児教育・保育を実施していきます。また、子どもの発達段階に応じ、子どもの育ちを全体として考え、専門的に調査・分析し、実践に反映していくことが、幼児教育全体の質の向上につながると考えています。このため、公立・私立、幼稚園・保育園の枠を超えた幼児教育全般に関する研究や支援を行う組織として、（仮称）子育て・幼児教育センターを設置します。
14	サービス中心で、子どものためになっていないことが多い、幼児教育全体の質の向上とは何か。	
15	幼児教育の質の向上を目的とするならば、区立幼稚園での子どもたちの育ちを調査研究する事は不可欠ではないのか。	
16	幼児総合施設、（仮称）子育て・幼児教育センターとともに、少子化を反映した個々のニーズに対応するためのものとして考えていくことが重要だ。	幼児総合施設は、保護者の就労の有無に関わらず、多様なニーズに応じた幼児教育・保育の機会を提供するとともに、子育て家庭への相談支援や乳幼児親子の交流の場となるなど、新たな施策展開を図るものです。また、（仮称）子育て・幼児教育センターは、子どもの現状や課題、子どもに関する施策や施設のあり方等を調査・研究し、区全体の幼児教育・保育の充実を図るために設置します。
17	幼児教育の環境整備を図るための計画は、検討・研究を重ね時間をかけて作るべきだ。	今後の幼児教育全体のあり方については、これまでの検討を取りまとめて、なるべく早い時期に示したいと考えています。幼児教育の環境整備を図るための各事業については、事業ごとの取組みの中で事業実施に向けた調査・検討を十分行い進めていきます。
18	2年の間にやよいとみずのとうの幼稚園をなくすにしても、その後のことが何も決まっていない。今後の幼児教育のあり方を具体的に示して欲しい。	
19	今後の幼児教育について、長い間幼児教育に携わってきた教職員を交えて検討を行うべきだ。	
20	区全体の幼児教育のレベルアップを図っていくのであれば、幼児教育振興プログラムを専門家を交えて作り、区立・私立、幼稚園・保育園の枠を超えた、中野区としての幼児教育のあり方をきちんと定義すべきだ。	
21	幼児総合施設への転換後も、現在行われている「園庭開放」を継続して欲しい。	
22	私立幼稚園の就園率について、区に届けられた定数と現在の実態に相違がある。直接私立幼稚園に現在の定員を確認し実態にあった算出をすべきだ。	教育委員会事務局の資料では、各私立幼稚園の認可定員の数を使用しています。また、就園率の算定にあたっての園児数は、東京都へ報告している「現況調査」の数値を使用しており、実態を表したものと考えています。

【区立幼稚園の存続・廃止】

23	区民から望まれる区立幼稚園は残して欲しい。		
24	今後も区立幼稚園は、子どもが自然の中で楽しめ、いろいろな体験ができる場であって欲しい。		
25	経営を考慮せずに、理想とする教育を目指すことができる場所に区立幼稚園の存在意義がある。財政事情が厳しいことは承知しているが、予算を工面し、将来を見据えた賢明な教育行政の実現を希望する。		
26	江原小学校との連携が取れているみずのとう幼稚園を廃止すべきでない。		
27	区立幼稚園では、子どもたちに必要な幼児教育を適切に実践している。現場視察をとおして区立幼稚園の必要性を再認識して欲しい。	<p>幼児総合施設への転換は、区内の幼稚園全体の幼児の数や定員の状況を考慮するとともに、公共サービスにおいても民間が担うことができるものは民間に任せていくという視点から検討したもので、転換に際しては、民間活力を活用していきます。区立幼稚園の担ってきた良い点は、今後の幼児教育全体に生かしていきます。また、今後区としては、公立・私立、幼稚園・保育園を問わず、幼児教育全体の質の向上を図っていきます。</p>	
28	区立幼稚園の運営をとおして培われてきた先生の知恵を継承して行って欲しい。		
29	区民ニーズに応え、幼児総合施設への転換を図るなら、現在の区立幼稚園を選んでいる家庭のニーズはどう考えるのか。		
30	遠くからでも区立幼稚園に通わせている人もいる。区立幼稚園自体少ないのに、2園も廃止されては困る。		
31	卒園した幼稚園がなくなるのは子どもにとって心理的な影響が大きい。子どもの気持ちは考えないのか。		
32	区立幼稚園を廃止する理由を教えて欲しい。		
33	区立幼稚園の廃止については、寄せられた意見を尊重し、急がずにじっくり時間をかけて話し合っ		
34	区立幼稚園の幼児総合施設への転換を、なぜ拙速に進めるのか。		
35	区立幼稚園を存続させ、モデル園的な機能をもたせていくべきだ。		区立幼稚園がモデル園となるのではなく、公私を問わず、幼児教育の課題に取り組んでいく考えです。
36	区立小中学校の再編の場合は、近くに受け皿となる学校があるが、区立幼稚園の場合は受け皿がなく幼保一元化も、どのような形になるかわからず不安だ。		<p>区内や隣接地域には、私立を含めて多くの幼稚園があり、その中で受け入れが可能であると考えています。</p>
37	なぜ数少ない区立幼稚園を廃止しなければならないのか、わからない。廃止の情報が錯綜し、地域住民も混乱している。情報の詳細を頻繁に区民に報告すべきだ。		
38	みずのとう幼稚園周辺の私立幼稚園は就園率が高い。区で私立幼稚園に受け入れを申し入れるとのことだが、実際に受け入れがされたか把握できるのか。		

39	私立幼稚園に比べ、良心的な保育料の区立幼稚園を廃止するのではなく、逆に増やして欲しい。	区立幼稚園を増やすことは考えていません。
----	---	----------------------

【幼児総合施設】

40	幼稚園は保育園と違い、送り迎えや園運営の役割分担などをおとした、親同志の交流の場でもある。幼児総合施設となっても交流の場としての機能を失わないようにして欲しい。	幼児総合施設は、子育て家庭への相談支援や乳幼児親子の交流の場になると考えています。
41	幼児総合施設は、幼稚園ではなく別の場所にモデルケースを作り、そこでの運営を踏まえたうえで区立幼稚園の転換を図るべきだ。	区立幼稚園の見直しの中で、やよい、みずのとうの2園を幼児総合施設へ転換することとしたものです。
42	幼児総合施設については、どのような保育内容となるかなど、具体的な内容を保護者に示し、そのうえで転換への話し合いがなされるべきだ。	
43	親も子も地域住民も、より良い教育内容・環境を求めている。幼児総合施設の設置にあたっては、もっと区民の声に耳を傾け、どうしたら区民に満足されるものができるのか考えて欲しい。	
44	幼児総合施設は、区立幼稚園を廃止することなく、そのまま区立の総合施設として設置して欲しい。	
45	区立幼稚園のすばらしい施設や教育内容等を損なうことなく、真に幼児のための施設となるよう、幼児総合施設の設置基準、内容等を十分検討して欲しい。	
46	幼児総合施設の検討にあたっては、幼児教育の専門家を入れて検討を行うべきだ。	
47	幼児総合施設は、病児の一時保育の実施など困った時に対応できる施設として欲しい。	幼児総合施設への転換については、利用の形態や定員、運営方法など、さまざまな点を勘案しながら検討していきます。検討の過程では区民のみなさんの意見を聞きながら進めていきます。
48	幼児総合施設は、就労の有無に関係なく預けられるということだが、親の育児放棄を助長させないように一定のルールが必要ではないか。	
49	幼児総合施設における利用の形態（幼稚園・保育園・その他）の割合は、慎重に検討する必要がある。	
50	幼児総合施設への転換にあたっては、単学年にならないようにすべきだ。	
51	幼児総合施設ができた場合には、保育園の待機児童の入園が優先されるのではないか。明確に幼・保の人数の割振りはあるのか。	
52	区北東部で幼児総合施設の設置を拙速に進めることは、これから連携を図ろうとする一部私立園や保育園に不利益を与えるのではないか。	
53	他区にある幼児総合施設のモデル園の実践から得られる総合施設のメリット、デメリットを検証し、問題点、改善点を明らかにして欲しい。	

54	幼児総合施設は、現在よりも保育料が安く、充実した施設となるようにしてほしい。	他の自治体の幼児総合施設に類似する施設では、現在の幼稚園・保育園の保育料を基準としています。が、今後の幼児総合施設の検討の中で明らかにしたいと考えています。
55	幼児総合施設ができた場合、収入の少ない家庭に対する保育料はどうか不安だ。	
56	幼児総合施設は、親子が安心して生活できる施設として欲しい。	子どもの安全対策は、最重要課題として区全体で取り組んでいきます。
57	幼児総合施設は、子どもたちがのびのびと子ども時代を過ごせるような、自然との触れあいがもてる場としてもらいたい。	園庭などの環境は、今後も活用できると考えています。
58	乳幼児の親子にとっては、遠くに立派な施設があっても利用できない。近くに配置してほしい。	
59	幼児総合施設が2園だけでは、周辺の住民のみがサービスを受けられるという不公平感がある。	当面2園を開設する考えですが、利用状況を見て、更に検討していくこととなります。
60	幼児総合施設の設置を望む保護者のニーズはない。	
61	幼児総合施設へ通わせたい人はどの程度いるのか。また、どのような利用形態（幼稚園としての利用・保育園としての利用）を希望しているのかを教えてください。	教育委員会としては、直接的な調査は行っていません。国の審議会などで長年議論されてきており、幼児総合施設へのニーズはあるとして一定の方向が示されています。
62	区立幼稚園の幼児総合施設への転換は、子育て支援策としてなのか財政負担の軽減のためなのか教えてください。	区立幼稚園2園（やよい・みずのとう）の幼児総合施設への転換は、第一に子育て支援策として考えています。
63	どの程度区が指導・介入できるのか不明瞭な幼児総合施設の「民間委託」は不安だ。また、引き受けるところがあるのかも疑問だ。	幼児総合施設については、法律に基づく基準が示されることになっています。運営主体については、今後検討を進めていきます。また、幼児総合施設の運営にあたっては、民間の活力を活用していきますが、幼児教育全体を向上させる観点から、区は、さまざまな支援をしていきます。
64	幼児教育の選択肢（区立・私立幼稚園、保育園）が多数あることを親は必要としている。幼児総合施設の内容を考える前に、もう一度子どもに今何を学ばせる幼児教育が必要なのかを考えて欲しい。	幼児総合施設は、幼児教育における多様な選択肢のひとつになると考えています。また、幼児教育は、人間的成長をするうえで欠かせない重要な意義をもつ大切なものと認識しています。

【（仮称）子育て・幼児教育センター】

65	幼児教育の質の向上のため「（仮称）子育て・幼児教育センター」の設置を望む。子どもにとって質の高い幼児教育を現場や専門家の声を聞いて作りあげて行って欲しい。	子どもの現状や課題、子どもに関する施策や施設のあり方などを調査・研究する組織として、専門研究員や幼稚園の教員、保育士などで構成する（仮称）子育て・幼児教育センターを設置し、区全体の幼児教育・保育の質の向上を図っていきます。
----	---	---

【園児募集の継続】

66	平成19年度、3歳児の募集を継続するのか教えて欲しい。また、募集するなら早期に示して欲しい。	園児募集開始の時期は、毎年9月末から10月初めとなっていますが、平成19年度の募集については、これより前のできる限り早い時期に示したいと考えています。
67	平成19年度の3歳児募集の継続を決め、早期に示して欲しい。	
68	区立幼稚園の幼児総合施設への転換は、充分時間をかけて検討し、平成19年度の3歳児募集を継続して欲しい。	
69	区立幼稚園を存続させながら、幼児総合施設への転換を図るならば、平成19年度の3歳児募集は、夏までに区民に周知すべきだ。	

【幼児教育の民営化反対】

70	中野区は、幼稚園を始め、すべて民営化すればよいという方向に動いていると言わざるを得ない。	幼児総合施設への転換は、区内の幼稚園全体の幼児の数や定員の状況を考慮するとともに、公共サービスにおいても民間が担うことができるものは民間に任せていくという視点から検討したものです。区は、公私を問わず、教育全体の向上のための役割を果たしていきます。また、幼児総合施設については、民間活力を活用する一方、区としても連携や支援を行い、サービスの質を確保していきます。
71	幼児教育が大事ならば、すべてを民営化するのではなく、区が何らかの形でバックアップして欲しい。	
72	区立幼稚園には優秀な教員がいるので民間に委託する必要はないと思う。	
73	幼児総合施設を民間にまかせるのは、金銭的な面で反対だ。区立として運営して欲しい。	
74	民間施設が非営利的な立場で教育を行えるか不安だ。教育を民間に委託することは社会的責任の放棄ではないのか。	

【保育料・保護者補助金・経済的負担】

75	民営化されると保育料が今よりかなり高くなるのではと心配している。なるべく低くなるよう考えて欲しい。	他の自治体の幼児総合施設に類似する施設では、現在の幼稚園・保育園の保育料を基準としています。今後の幼児総合施設の検討の中で明らかにしたいと考えています。
76	区の財政が厳しいのなら、保育料の値上げは多少ならば仕方ないが、収入に応じた保育料にすることはできないのか。	幼稚園の保育料は、所得によって区分することなく、一定の額とすることが適切と考えます。所得が一定以下の方については、就園奨励費などで支援をしています。
77	区立幼稚園を廃止するならば私立幼稚園の保護者への補助金をもっと増額すべきだ。	区立幼稚園の保育料を見直すと同時に、私立幼稚園の保護者補助金を増額するなど、公私格差是正の観点から見直すこととしています。
78	区立幼稚園の廃止を考える前に、公立・私立の保育料の格差是正を行うべきだ。	

79	私立幼稚園へ入園させる余裕のない家庭に対して、区からの経済的な支援はあるのか。	幼稚園の保護者に対しては、就園奨励費補助金や私立幼稚園保護者補助金などの支援制度があり、幼児教育については、公費で支援する必要があると考えています。
80	経済格差が社会問題となっている中、幼児教育も公費で支える必要があると思うが、区はどう考えているのか。	

【障害児対応】

81	私立幼稚園の障害別の障害児受け入れ数を示すべきだ。	区内の公立・私立幼稚園において、療育センターアポロ園が巡回訪問指導を行っている数値は公表しています。 公私に関わりなく、すべての幼稚園で、発達の状況に応じた教育機会の提供が行えるようにしていくことが必要であると考えます。区では、私立幼稚園等がさらに障害児を受け入れやすくなる方策を検討します。
82	障害児を民営の幼児総合施設でも受け入れてくれるのか不安だ。	
83	私立では断られたが区立幼稚園は、障害児を受け入れ適切なサポートをしてくれた。区立幼稚園を廃止すると、障害児は行き場を失ってしまう。	
84	自閉症傾向のある子どもの親だが、区立幼稚園の入園が決まって安心している。障害児のいる家庭が暮らしやすい区であり、また、障害児を受け入れてくれる施設が増えることを願う。	

◇項目4 プロジェクト X（学校環境の整備）に関する意見（1件）

1	中野本郷小学校は校庭の水はけが悪いので改善して欲しい。芝生化も検討して欲しい。	中野本郷小学校の校庭については、今年度整備をする予定です。芝生化については、17年度実施した若宮小学校の検証を踏まえながら進めていきます。
---	---	---

◇項目5 その他の意見（14件）

1	渋谷区にある「子どもの城」のような児童施設を作って欲しい	新しい中野をつくる10か年計画では、子どもたちが自由な遊びや活動ができるよう小学校施設を活用した遊び場機能等の展開を進めていきます。また、中高生向けの新しい児童館も計画しています。
2	緑があり、安全に遊べる広い公園を中野駅の近くに作って欲しい。	警察大学校等跡地地区に、1.5ha程度の防災公園整備を計画しています。
3	各学校に障害学級を設置して欲しい。	障害学級については、今後特別支援教育のあり方を検討していく中で、望ましい学級規模、通学距離、地域バランス等を考慮し、適正な設置を行っていきたいと考えています。
4	中野区には、障害のある子どもを受け入れる施設が少ない。学校再編で使用しなくなる学校を、障害のある子どもたちのために活用してはどうか。	前期再編対象校の学校跡地の活用については、区全体の施設計画の中で用途が検討されています。障害のある子どもたちのための施設需要と、区全体の施設計画等、今後の状況を見ながら検討していきます。

5	<p>おもいきり体を使った遊びのできる場所のないことが、体力低下につながっている。授業の中で体力向上を図る前に、走り回ることのできる、土や芝生の広場を作って欲しい。</p>	<p>平和の森公園のほか、鷺宮、谷戸などの土や芝生の広場がありますが、今後、公園整備の中で拡充していきたいと考えています。</p>
6	<p>中野区教育委員会は都内で一番遅れている。より良い教育委員会に変わって行って欲しい。</p>	<p>教育委員会は、中野の子どもたちの教育の向上のために、真剣に取り組んでいます。今後も努力していきます。</p>
7	<p>幼児教育について、子ども家庭部と教育委員会それぞれの役割を教えて欲しい。</p>	<p>区立幼稚園については、教育委員会が所管しています。その他、保育園や私立幼稚園については、子ども家庭部が所管しています。教育委員会は、幼児から高齢者までの区全体の教育の向上について役割を果たしています。子ども家庭部は、子どもと子どもを育てる家庭を支援するとともに、地域全体で子育てを支援できるような体制づくりを担っています。教育の部分と子育ての部分は、密接にかかわっているため、教育委員会と子ども家庭部が連携して取り組みます。</p>
8	<p>10か年計画で、子どもの遊びと学びの場を減らす改革を押し進めていると強く感じる。公的施設の民間への移行は疑問だ。</p>	<p>区は、「民間にできることは民間に」の考えを原則として、一定のルールのもとで公共サービスの提供を、多様な主体に委ねることとしています。区は、新たな公共サービスの担い手が活動しやすい環境を整え、公共サービスの品質を確保して、利用者の権利を守る役割を担っています。公的施設については、この考えに基づいて施設ごとに検討し、必要に応じ民間への移行等を行うものです。</p>
9	<p>杉並区や江戸川区、品川区のように子育てのしやすいシステムを作って欲しい。子育てにやさしい中野区になってもらいたい。</p>	<p>区では、平成17年3月に「中野区次世代育成支援行動計画」を、また、本年1月には「新しい中野をつくる10か年計画」をそれぞれ策定しました。これらの計画に基づき、子どもと子どもを育てる家庭を地域全体で支援していきます。</p>